

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.170**
最良の中の最善を尽くす
有限会社 渡具知 代表取締役社長 渡具知 豊
- 5 **地域リレーションシップ情報 162**
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
「企業の強みを生かす 知的財産制度
活用ガイドブック」の公表について
- 6 **中小機構 沖縄事務所の取組**
中小企業の安心・安全への取組みについて
- 7 **おきぎんマーケティングレポート**
第71回おきぎん企業動向調査
(2018年1～3月期) 調査結果
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感～
- 16 **けいざい風水**
- 18 **県内景況・確報**
2018年2月の県内景況
- 26 **国内景気動向**
- 28 **沖縄マーケティング情報**
 - ①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
 - ②世界の中の沖縄(年次)
 - ③グラフでみる沖縄経済
 - ④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 48 **経済社会のできごと(沖縄、国内・海外)**
2018年3月
- 50 **各種セミナー等開催インフォメーション**



表紙写真/デイゴと青空

最良の中の最善を尽くす



有限会社 渡具知

代表取締役社長 渡具知 豊



今回は、1957年以来、名護の地において清涼飲料水を中心にやんばる特有の地の利を生かした農産物の製造加工に励み、最近では事業者同士の連携をサポートして新たな価値や仕事を生み出している、有限会社 渡具知の渡具知 豊 代表取締役社長にお話を伺って参りました。

地域の方々に愛される商品を目指して

弊社の前身は1957年に名護の地においてシャスターコーラ（アメリカブランド）の製造を期に創業して清涼飲料水を柱に製造販売し、その後は、氷菓類の「ロンロン」等を製造して地域の方々に愛される商品作りを目指して歩んで参りました。現会長で父の渡具知光雄が追及して誕生させた「飲む玄米」は、沖縄では、古くから各家庭で手作りされてきたソウルドリンクです。

▲ラッキージュース
(1957年～)

▲飲む玄米

私は三男で、次男が歯科医であることから歯科技工士として大阪で勉強し東京で仕事をしていました。会長である父が東京に展示会等で上京する機会が度々あり、後継者が居ないという話を聞かされていたのですが、当時は耳に入りませんでした。

それから東京暮らしが数年経って結婚を期に沖縄に戻ることにしました。沖縄に戻った初め

の頃は、父の会社を手伝い、一方で歯科技工所開業の準備をしていたのですが、2足の草鞋を履くことが難しいことに気づき、歯科技工所の開業は断念しました。

会社を引き継いだのは1994年で、95年には「渡具知食品」から「有限会社 渡具知」に改称し、自社製品はもとより、各種OEM（PB）企画商品の開発も行うようになりました。

最良の中の最善を尽くす

弊社では安心・安全・健康をキーワードとし、防腐剤や添加物などを使用せずに品質を向上させ市場に供給することを目的にし、BEST OF BEST『最良の中の最善を尽くす』を基本理念に掲げています。

『最良の中の最善を尽くす』とは、なにか一つを選択・判断する時には、当然、「最良」のものを選ぶのですが、その根っ子にあるものは「最善」の心で選ぶということです。「善」とは、優先順位で第一に「お客さまのため」であり、第二に「会社のため」、第三に「従業員のため」です。

この選択・判断さえあれば、万が一選択ミスをしてでも取り返しは付くと考えています。

この理念の下、社会に支持される商品作りを地域のみなさんと一緒に安心・安全・健康を心がけて製造加工を行っています。

北部地域から生まれた農産物を加工製造することで農業振興に努める

近年は北部地域から生まれた農産物を加工製造することで農業振興の一助となれるよう社員一同努めています。

戦後、沖縄にモノが無かった時代に、原料であるコーラやオレンジジュースなどの液体をアメリカから仕入れて、ビン詰め加工していた弊社の前身を私は横目で見ながら育ちました。私が会社を引き継いで、やんばるの農産物の加工製造に取り組むようになったのは、「地域で生まれたものを形にしたい」という、ちょっとした抵抗心が根っ子にあったかもしれません。

農産物の加工製造に取り組む発端になったのはシークワサーブームでした。90年代後半から2000年代前半にかけ、シークワサーはブームで需要が高まり、弊社もブームに乗かってシークワサーの果汁飲料商品の製造・販売で売上を伸ばしました。果実の買い取り価格は05年には1キログラム当たり450円の最高値をつけました。

しかし、その後は安価な台湾産やフィリピン産の類似品流入などの影響を受けて下落が続き、ブランド力の強化と農家の余剰収穫が課題となっていました。

そこで農家からの相談を受け、農産物のダブツキや価格の増減など課題となっているものを解決する一助として、また、安定した消費と拡大を願って、これまでにない消費シーンを描き新しい商品を開発するようになりました。開発商品はシークワサーのみならず、島唐辛子、ハバネロ、ノニ、ドラゴンフルーツなど多岐にわたっています。

和^{なご}シークワサー^{しょうひ}笑費隊

ところで、年間365トンのシークワサーが破棄されていることをご存知でしょうか？なんと、一日で約1トンのシークワサーが消費されずに破棄されている現状があります。

このシークワサーの現実を何とか前向きな

取り組みに変えたいと、弊社を含む名護市の4企業が、「和^{なご}シークワサー^{しょうひ}笑費隊」を2016年春に結成し、シークワサーの笑費（消費）に楽しく元気に取り組んでいます。

「和^{なご}シークワサー^{しょうひ}笑費隊」は、県内各地で開かれるイベントやお祭りにシークワサーの着ぐるみをまとって登場します。シークワサーの消費拡大を訴え、歌（CD）や踊りを披露しています。また、名護市との友好親善都市に赴きイベントやスーパーの催事コーナーでの販売促進にも努め、新商品の開発、観光プログラムとの連動を目指しています。



▲和^{なご}シークワサー^{しょうひ}笑費隊

「ドラえもん会議」で勇気と希望を持って帰る

笑費隊は、販路開拓&訴求イベントだけではなく、地域の課題の再抽出と地域の未来につながる体制づくりのための「ドラえもん会議」も開催しています。

まず、困っている「のび太」と、助ける「ドラえもん」の役割をはっきりさせます。「ドラえもん」は「議論」する人ではなく「解決」する人だけを揃えて、「のび太」の困りごとの解決を図る目的だけに集中して会議を進めていきます。その背後に関係者を傍観させ、こうすれば解決できるのだというのを可視化させることで、解決する「場」をシェアさせます。関係者の「スネ夫」も「しずかちゃん」も「ジャインアン」も勇気と希望を持って帰ることができます。

名護市は、県内11市の統計で、糖尿病に密接な関係がある血液中の成分 HbA1c〈ヘモグロビン・エーワンシー〉値が、男女ともに悪い結果であり非常に大きな課題となっています。このまますすめば医療負担は増大し将来的には財

政へも大きくマイナスを及ぼします。

そこで、シークワサーの効果効能の一つに「抗糖尿病」があることがわかり大きな期待が寄せられています。平成28年9月に開催した「ドラえもん会議」では、その機能性や活用方法を「医×食」の視点で見だし、「笑費」につなげ、名護を長寿でより元気な街へと導き、一步を踏み出す会議となりました。



▲平成28年9月開催「ドラえもん会議」

「馬鹿者」として、和睦郷里の心で、粉骨碎身、頑張る

弊社は2013年より「やんばるは美味しい」をスローガンに「やんばる畑人プロジェクト」にも取り組んでいます。沖縄やんばるエリアの畑人（ハルサー）、料理人、加工所などがつながって、畑人の栽培した作物を活用した国産スパイスの開発などを行っています。また、やんばる食材の料理が楽しめる香祭（カバーサイ）など定期的に開催し、地域性を活かした「食」のアクションにも取り組んでいます。

現在、プロジェクトに加盟している飲食店は40店舗以上に広がり、私は定期的に開催される会議に参加してプロジェクトを盛り上げています。よく街づくりには「余所者、若者、馬鹿者」が必要と言われていますが、私自身は名護出身で「余所者」ではなく、年齢的にも「若者」でもなく、結局、「馬鹿者」しか選択は残っていません。ここで言う「馬鹿者」は、馬並みに動いて鹿のように凜として立ち振る舞う、要するに「人並みでない」ということです。

私は「馬鹿者」として、和睦郷里の心で、粉骨碎身、頑張らせていただきます。



▲やんばる畑人プロジェクト

55区の自慢をしてください

名護市は、東京オリンピックが開催中の2020年8月1日に市制施行50周年を迎えます。1970（昭和45）年の1町4村合併による名護市誕生から半世紀という大きな節目にあたり、「これまでの半世紀」と「これからの半世紀」を結ぶ年と位置づけています。

名護市の過去・現在・未来を見つめ、名護市の様々な魅力を再発見し、市民としての自覚と誇りを高め、同時に名護市の魅力を内外に発信し、これからの半世紀につなげる最初の一步を踏み出す機会です。

名護市は55区から成り立っています。50周年を迎えるにあたっては、「是非、自分の区の自慢をしてください」と、私は機会がある度に話しています。その自慢できる資源・歴史・伝統に対価を払ってくれる人がいたらそれはまさに地域ビジネスです。

箱物をつくるのではなく、今あるものに価値を付けてくれる人を探すべきであり、そのためには今あるものを自慢しなければなりません。例えば屋我地の塩や羽地の米などなど、やんばるは自然が豊富でまだまだ広く知られていない素材がたくさんあります。また、やんばる独特の歴史・伝統にも価値を付けられる魅力的なものたくさんあります。

こうした素材や歴史・伝統を、これまで弊社が培ってきた商品開発と同様に、人と人を繋げて紡いでいくのは、私の使命かもしれません。皆で名護市市制施行50周年を一緒に盛り上げていきたいと願います。



シークワサーパウダーで ノビレチン生活始めませんか？

タンゲレチン
105.8mg
100g あたり

クエン酸
3000mg
100g あたり

- ダイエットをしたい方
- 美肌を保ちたい方
- 血圧や血糖値が気になる方
- 便秘ぎみを解消したい方
- 花粉症で困っている方
- いつまでも健康を維持したい方

Wago 和♥ノビレチンの力 シークワサー果実 まるごとパウダー

この1袋に
生の果実
約30個分

1日 2.5g
(小さじ1杯)



ヘスペリジン
(ビタミンP)
863.7mg
100g あたり

ビタミンC
13mg
100g あたり

ノビレチン
375.0mg
100g あたり

ご利用
方法



通常は ¥2700

このチラシを見た
方は ¥1890 (税込)

有限 渡具知 沖縄特産飲料・氷菓製造販売
会社 琉球薬草・野菜乾燥・粉末加工
〒905-0021 沖縄県名護市東江2-8-43

☎ 0120-751-038
<http://www.ryukyuyakuzen.com>
✉ kanri@ryukyuyakuzen.com

けいざい風水

女性活躍推進

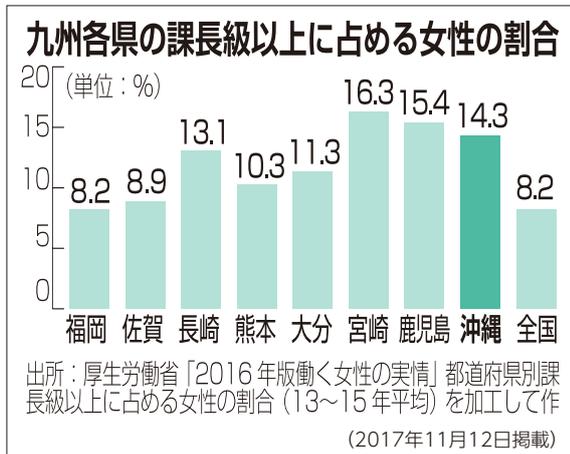
働き続けられる制度を

「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」が施行され1年半が経過しました。この法律は、国や地方公共団体、従業員301人以上の企業（300人以下の企業は努力義務）に対し、女性活躍推進のための事業主行動計画の策定と公表、女性の活躍状況に関する情報の公表などを義務付けた法律です。県内でも各企業・団体が行動計画を策定し、ホームページなどで情報公開しています。

2015年国勢調査によると、県内の女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）は全国平均と同率の67.3%となっており、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」によると、県内の管理職（課長級以上）に占める女性の割合は14.3%（13～15年平均）で全国平均の8.2%を上回っています。

しかし、活躍する女性が増える一方で結婚や出産、子育てを機に退職する女性が多いことも事実です。最近では多くの企業が女性管理職や管理職候補の育成に力を入れています。国立社会保障人口問題研究所の調査結果では、33.9%の女性が第1子の妊娠を機に退職しています。女性管理職を増やすには、女性が離職せずにキャリア形成することが必要であり、さまざまなライフイベントを迎えても働き続けられる制度や福利厚生が整った職場環境、そして家庭のサポートが不可欠です。女性が生き生きと活躍するには、企業の支援とともに男性の働き方も見直さなければならないのではないのでしょうか。

（沖縄銀行 与儀支店長 嘉数 美千恵）



経済成長のスパイス

地域のにぎわい鍵

最近、市街地を歩くとさまざまなイントネーション・外国語を耳にし、車を運転するとレンタカーも多く目にします。国内外を問わず観光客が増加していることを実感します。

2016年度の沖縄県の入域観光客は876万人（前年度比10.5%増）、そのうち外国人は212万人（同27.5%増）で過去最高となっています。実質GDPは17年度も沖縄・全国ともにプラス成長（沖縄県1.8%、全国1.5%）の見通しで、観光産業を中心に県内経済も好調に推移しています。

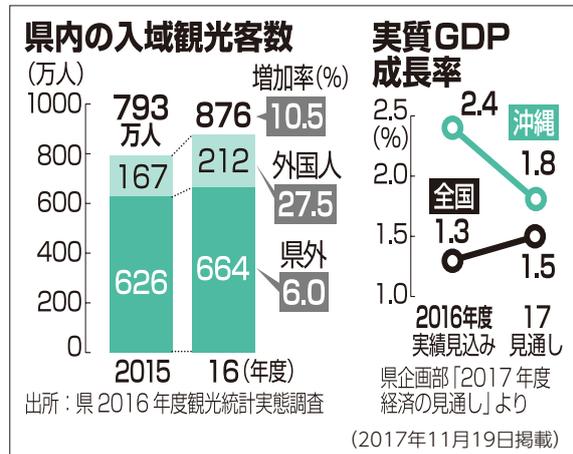
私たちも旅行に行く時は、観光施設で楽しむだけでなく、その土地の食文化や生活などに触れ、にぎわいや活気がある心地よい体験を求めるのではないのでしょうか。

県内各地で地域活性化の取り組みや、にぎわい再創出目的も含め多数のイベントやお祭りが開催されています。最近では那覇市内の商店街で、雑貨・農産物・食品など個性的で魅力的な店舗が県内各地から約40店舗出展するイベントが開催され、大変なにぎわいを見せていました。

経済は人と物とお金の交流活動ともいわれます。観光客だけでなく、読者の皆さまも観光客の気分で県内各地の商店街やそこで開催されるイベント、お祭りに足を運んでみませんか？ 新しい発見があり、楽しい気分になれると思います。

地域を楽しむ行動が、人と物とお金の交流を活発にして地域に魅力とにぎわいをもたらす、県経済を大きく成長させるスパイスになるのではないのでしょうか。

（沖縄銀行 壺屋支店長 比嘉 洋之）



識名園

観光地として定着を

「識名園」は琉球王家最大の別邸で、首里城の南にあることから「南苑（なんえん）」とも呼ばれています。1799年に造られ、当時は中国皇帝からの冊封使をもてなす現在でいう迎賓館として使われていました。造園形式は「廻遊（かいゆう）式庭園」で池の周囲に琉球石灰岩を配し、琉球独自の工夫がされています。

第2次世界大戦でほとんどの建造物が破壊されたため、1976年に総事業費7億8千万円をかけて復元整備され同年に国指定「名勝」、2000年には国指定「特別名勝」、同年ユネスコの「世界遺産」に登録されました。

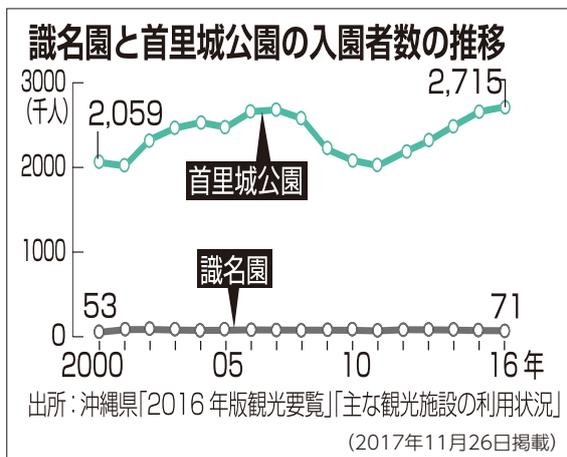
世界遺産登録に伴い入園者数は増加、00年の5万3千人が翌年は8万4千人となりました。しかし02年の8万5千人をピークに伸び悩んでおり、16年は7万1千人にとどまっています。

識名園に対し、近郊にある「首里城公園」は県内入域観光客の増加に伴い、入園者数は好調に推移し、00年の205万9千人が16年には271万5千人に増加しています。

このように入園者が減少している識名園では、地域文化に親しんでもらい地域活性化を図る目的で、毎年12月に「識名園友遊会」を開催しています。園内を見学しながら学芸員や管理指導員による解説で世界遺産を学ぶ「世界遺産解説会」を年に3回開催して、PRする取り組みもあります。

今後は識名園へ県民が関心を持つことで、県外や海外でも幅広く認知してもらい、観光地の一つとして定着することを期待したいものです。

(沖縄銀行 識名支店長 伊禮 太介)



特定空き家

相続など早めに対応を

「特定空き家」をご存知でしょうか。最近テレビや新聞などで取り上げられますが、大都市に限った問題ではありません。

空家等対策特別措置法によれば「特定空き家」とは「そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態、その他周辺的生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる空家等をいう」とされています。指定されると土地に関する固定資産税の優遇措置などが受けられなくなります。

2017年3月に公表された那覇市空家等実態調査結果報告書によると、空き家と推定される建物が473件あり、そのうち特定空き家などの候補となり得る物件が124件あります。所有者が特定できなかったのは180件あり、その主な理由の一つとして、相続が発生している物件で相続人等が不明ということが挙げられています。

こういった空き家が増加し、放置され「特定空き家」に該当するような建物が増えてくると、地域の安全、衛生に影響を及ぼすだけでなく、経済的にも損失につながります。

このような問題を防ぐには、物件を引き継ぐ側と受け継ぐ側が双方とも近隣への影響を認識し、引き継ぐ時点で対応を考えるのではなく、早いうちに準備、相談することが必要ではないでしょうか。

(沖縄銀行 首里支店長 高良 智)

